

## 社会福祉施設連絡会 定例会

藤井寺市社会福祉施設連絡会が、2月14日(水)午後2時から、藤井寺市立福祉会館(北岡1丁目)で、会員等25名が出席して開催された。

奥田益弘会長は、冒頭の挨拶の



冒頭の挨拶をされる奥田会長  
藤井寺市福祉会館

中で、介護報酬改定を含めた福祉全体の改定についての考え方が示された点に触れ、生活困窮者自立支援制度では、中間的就労を進め、いまだに生活保護受給者が不適切な支出をしている点から、家計支援の必要性を述べられた。低所得未就労の方が就労できる環境に至っておらず、藤井寺市においても今現在それなりに営みを送っている方や今後困窮の状態に陥いるかもわからない点を挙げられ、核家族化が進展し、独居世帯が増えてくると述べられた。

藤井寺市社協を中心しながら活動していかなければならないと述べられた。



社会福祉施設連絡会が開かれた  
藤井寺市福祉会館 2階

### ◆第3期地域福祉活動計画

事務局前原氏から、素案が発表された。活動計画の説明をもとに基本的な考え方を示された。パブリックコメントを通し、正式版になると説明があった。期待される方向性として、普段から地域のつながりの強さが発揮できるのではないかと説明をされた。また、地域の福祉活動の現状から、期待される方向性として、各地区の持つ自立的な活動を基礎とし、その上で学校や社会福祉施設、さらには、これまで交流機会が少なかった団体等との関係の構築に取り組み、世代間交流等を通じて、様々な人や団体等との関係の構築に取り組み、世代間交流等を通じて、様々な人や団体等がつながり合うことで、地域のつながりより一層力強いものにできるのではないかと示された。また、普

段からの地域のつながりの強さが、災害時等にもその強さを発揮できるのではないかと方向性を打ち出された。奥田会長から、活動計画は行動の重要性を述べられた。



地域福祉活動計画  
を説明する事務局  
前原氏(右側側)

### ◆藤井寺市生活保護制度の現状

藤井寺市生活支援課松中氏から、年度別の生活保護受給世帯数の推移として、高齢世帯が半数を占め、増加傾向であると説明をされた。平成29年度生活困窮者自立支援相談件数等(月別)のデータを示され、説明があった。藤井寺市年度別生活保護受給世帯数等の推移として、受給者数及び受給世帯数は減少傾向にある。年度別相談件数は横ばいもしくは減少と説明をされた。

### 2018年度藤井寺市社会福祉施設連絡会事業計画(案)

の提示があり、意見を募った。  
4月11日(水)の総会に諮ることになる。

## 今年度の振り返り

◆会員から、生活困窮の支援は、民生委員さんとの関わりが不可欠であり、強力な関係性を作っていたいと述べられた。また、各会員から大和川氾濫水域になった時期を振り返り、行政、社協、施設での連携を深めるとの意見が出された。

奥田会長から、南海トラフ地震を通し、災害支援を考える研修会を大阪府社協で企画しており、参加を促された。共同募金について、もっとインパクトがあり、街頭募金の趣旨を合わせて配布してもよかったと述べられた。他、つながりの具体性として会員のホームページに連絡会通信をアップすれば連絡会が行っていることを公開できる仕組みになるのではと述べられた。他、顔の見える関係作りや世帯全員の支援、つながりの具体的な事例検討を深め、行政サイドと現場の民生委員の方々の連携で困窮者支援にあたる必要性の意見が出された。

奥田会長から、今後進展の必要がある中間的就労を通して、会員同士でノウハウを提供し、事例を積み上げ、有効性が確認できれば、さらに支援の広がりが増す。また、事例から「こんなあったら、ええな」が時代のニーズであり、行動に移さないと成果は得られないと述べた。

◆とつくり委員会が、1月25日午後2時から藤井寺市社会福祉協議会2階講座室で、会員など12名が参加して開催された。



説明をされる中河内地域若者サポートステーション  
鈴木総括コーディネーター

特別講義は、「サポステについて」、中河内地域若者サポートステーション総括コーディネーター鈴木久美氏から、地域若者サポートステーションとはについて説明された。目標・若年無業者(15〜39歳の仕事に就いておらず家事も通学もしていない者)等の職業的自立支援であり、就労に向けた意欲を持ちながらも、悩みや課題を抱えている若者が対象と強調された。自立する若者の職業的自立を目指して就労に向けた支援として、●サポステ相談支援事業●若年無業者等アウトリーチ支援事業(新規)●定着・ステップアップ事業等の事業内容の説明があり、合せて解説された。

●若年無業者等集中訓練プログラム事業●職場体験・就職支援事業(新規)●定着・ステップアップ事業等の事業内容の説明があり、合せて解説された。

その後、職業チェックリストを会員が実施し、仕事観が漠然としている方々に対して活用示すものだと解説をされた。若者の数が減っているにも関わらず、ニートの数は近年、約60万人で高止まりであり、若者の就労を支援することは、若者の可能性を拓けるだけでなく、将来生活保護に陥るリスクを未然に防止し、経済的に自立させ、地域社会の支え手とするともに、わが国の産業の担い手を育てる為に重要であると説明をされた。

◆事例検討会に入り、藤井寺特別養護老人ホームの西矢隆史CSWからアセスメントシートを基に、事例①若者が家賃滞納で強制退去となり、尽心庵を活用した事例の紹介があった。30歳代の男性で継続して就労した経験がなく、短期の就労を繰り返していた。環境を整え、2か月半就労することができ、一定額の貯蓄に成功。12月末で雇用契約が切れたが、腰を据えて安定した職場に就ける方法を模索した。中河内サポステに相談し、鈴木氏が担当となり、検査を通じて、2週間の体験就労までこぎ

つけることができた。その間で居宅の設定ができ一人暮らしを再開する方向で動いていると報告をされた。

事例②として引き続き藤井寺特別養護老人ホームの西矢CSWから、70歳女性の事例についての報告がある。年齢からすると生活保護を受給した上で、生活再建を考えるが、この女性は、自分でやってみたいとの気持ちを強く持たれ、実際、寮付きの就労先を見つけて来られた。高齢者は、施設に入所しかないではなく、高齢者就労裾野もどんなに広がっている点からもこの事例には勉強させられたと結ばれた。



◆大谷純平委員長から、2018年度とつくり委員会年間方針が示された。とつくり委員会では、藤井寺市地域福祉活動計画の中核である「顔の見える関係作り」を実現するために、①民生委員の事例検討会への参画②他市のCSWとの交流を方針の柱とし

て活動し、更なる支援力強化の為。地域資源マップの取り組みますと宣言された。具体的には、民生委員にとつくり委員会への参加を呼び掛け、他市のCSWとの合同事例検討会は、1回は実施の目標を掲げた。



特殊詐欺被害について説明する羽曳野市警察署以倉氏

◆羽曳野警察署生活安全課防犯係警部補以倉剛志氏から、特殊詐欺被害防止について藤井寺市羽曳野市管内で特殊詐欺に合う事例が続いているおり、防止の為に支援者との協力が欠かせないと説明を受ける。特殊詐欺には、高齢者が被害に追うケースが多く、防犯対策という場があれば、是非特殊詐欺被害防止の説明の為に outward したいと結ばれた。

とつくり委員会のご案内

日時 3月22日(木)  
14時~15時30分  
会場 藤井寺市福祉会館

会長の中間的就労の進展、家計支援の必要性の指摘から、会員同士のノウハウの提供等具体的な連携のビジョンが示され、皆で支援していくことを確認。  
2018年度も連絡会の活動を活発に行っていきます。

総会のご案内

日時 4月11日(水)  
14時~15時30分  
会場 藤井寺市福祉会館